

日本キリスト教会大阪北教会

2017年11月5(日) 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 エフェソの信徒への手紙6章21節～23節

06:21 わたしがどういう様子でいるか、また、何をしているか、あなたがたにも知ってもらうために、ティキコがすべて話すことでしょう。彼は主に結ばれた、愛する兄弟であり、忠実に仕える者です。 06:22 彼をそちらに送るのは、あなたがたがわたしたちの様子を知り、彼から心に励ましを得るためなのです。 06:23 平和と、信仰を伴う愛が、父である神と主イエス・キリストから、兄弟たちにあるように。 06:24 恵みが、変わらぬ愛をもってわたしたちの主イエス・キリストを愛する、すべての人と共にあるように。

説教『恵みと平和が全ての人にありますように』

- ◆先週わたしは、奈良伝道所の伝道集会の応援のために教会を離れました。それで、当日は、私が用意しました説教原稿を上田秀樹長老に朗読して頂きました。帰って来て早速、録音された礼拝説教を聞きましたら、自分の説教とは違う感じで、とても良かったです。説教時間も15分位でしたので、皆さんにとってもよかったのではないのでしょうか。
- ◆その説教において、このエフェソ書が獄中書簡であることに触れました。そしてこれに続くフィリピ書、コロサイ書、ピレモン書と、このエフェソ書の4書が獄中書簡です。ローマの獄中でパウロが認めた書簡をそれぞれの教会に届けたのがティキコと呼ばれるパウロの同労者です。今日の聖書で、パウロは、「彼は主に結ばれた、愛する兄弟であり、忠実に仕える者です」と紹介しています。そのティキコがこれらの書簡をたずさえて、それぞれの教会を訪ね、これを朗読すると共に、パウロの獄中の様子を直に伝えたのです。人には、人それぞれの役目があります。パウロの信仰はこのエフェソ書によって十分に知られるところですが、ティキコの証言によって、この手紙の言葉に命が吹き込まれたのです。
- ◆先週10月の31日が宗教改革500周年の当日でした。ルターが書いたものの中でも私が特に愛読しているのは『キリスト者の自由』です。岩波文庫で出ています。今でも手に入る薄い文庫本ですが、内容は豊かです。その冒頭でルターはキリスト者を定義して、こう書きます。「キリスト者は、すべてのものの上に立つ自由な君主であって、何人にも従属しない。

キリスト者は、すべてのものに奉仕する僕であって、何人にも従属する』と。正にこれはローマ獄中のパウロの姿を証しているようにも思えます。時はローマ帝国時代です。「ローマ」という絶対的権力下において、パウロは獄にある囚人です。しかしながら、彼は、主の主・王の王なるキリストに捕えられている故に、彼は「すべてのものの上に立つ自由な君主であって、何人にも従属しない」という自由の中にあります。しかし同時に、「キリスト者は、すべてのものに奉仕する僕であって、何人にも従属する」というのが、獄中のパウロの姿でした。パウロの獄中書簡をティキコがエフェソの教会に届けることが出来たのは不思議な事です。想像しますのに、パウロの獄における姿に敬服した看守の協力があつての事ではないでしょうか。信仰は敵さえも説得し得て、始めて信仰ではないでしょうか。

◆ところで実は、10月の27日と28日に岩手県立不來方高校合唱部の生徒さんたちが、この北教会で最後の練習を行なつて、フェスティバルホールでの全日本合唱コンクールに出場して、見事、最高賞を取られたのです。大分以前に「課題曲も自由曲も全て宗教曲なので、もし可能ならば練習会場に御貸し頂けないでしょうか」と依頼があり、使ってもらつたのです。それで練習を終えて、本番に臨む前に、御礼にと私と孝子さんに1曲歌ってくれました。それが何とあの和田アキ子さんの“あの鐘を鳴らすのはあなた”でした。初めて聞く歌のように、新鮮な思いで聞きました。

・あなたに逢えてよかった あなたには 希望の匂いがする

つまずいて 傷ついて 泣き叫んでも さわやかな 希望の匂いがする

町は今 眠りの中 あの鐘を 鳴らすのは あなた

人はみな 悩みの中 あの鐘を 鳴らすのは あなた

・あなたに逢えてよかった 愛しあう 心が戻って来る

やさしさや いたわりや ふれあう事を 信じたい心が 戻って来る

町は今 砂漠の中 あの鐘を 鳴らすのは あなた

人はみな 孤独の中 あの鐘を 鳴らすのは あなた

町は今 眠りの中 あの鐘を 鳴らすのは あなた

人はみな 悩みの中 あの鐘を 鳴らすのは あなた

◆あの鐘を鳴らすのはあなた！あの鐘とは希望の鐘です。あの鐘とは信じる事を呼び覚ます鐘です。あの鐘とは復活を告げる鐘です。赦しの告げる鐘です。愛の鐘です。「あなた方は絶対の恵み、絶対の恩寵、絶対の赦しを

告げる鐘をならし続けて下さい」と、言われているように感じました。

◆何度も申しましたが、宗教改革の3大原理は、聖書のみ・恵みのみ・万人祭司です。「祭司」とは「橋渡しをする人」の事でした。I ペテロ 2:9に「あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしい御業を、あなたがたが宣べ伝えるためなのです」とあります。いわゆる「聖職者」だけが祭司・司祭なのではなく、キリスト者一人一人が祭司なのです。これが「万人祭司」ということです。不來方高校(こずかた高校)の生徒さんの中には教会に行っている人はいないようでしたが、「あなたが、恵みと希望の鐘を鳴らしてください」と言われているように思いました。

◆一体私たちは、どれほどの「恵み」と「祝福」に与っているのでしょうか。既に始めに読んだ1章3節にこうありました。「わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、ほめたたえられますように。神は、わたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました」と。この「わたしたち」とは、パウロとティキコをはじめ、エフェソの教会の兄弟姉妹達です。そして今、これを読んでいる私達一人一人です。そして、わたしたち祭司によって、恵みの福音に触れる全ての人々です。

◆「神は、わたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました。」「霊的」の反対は「肉的」です。肉は「朽ちるもの」です。霊は朽ちないものです。わたしたちは、朽ちることのない天の全ての祝福の相続権者なのです。一体、それはどれ程のものでしょうか。私たちが与かっている祝福・恵みの総量はどれくらいのものでしょうか。その明細こそが、聖書なのです。聖書はテストメント・「遺言」の意味でした。

聖書のみ・恵みのみ・万人祭司！

◆9月25日に召された福岡悠紀子姉の変貌・召天のことをもう一度証しさせて下さい。姉妹の生死をかけた証は、「聖書の御言葉は、聖書の証しは全て真実です」という事として、私は受け止めたのです。闇が光に変わるのです。苦悩が平安に変わるのです。私は「悠紀子姉の瞬時の変貌」に接してから、聖書全体が改めて輝き出すのを経験しました。福岡悠紀子姉は神様によって、この聖書の全証言が、全て真実である事の、生き証人、死に証人、生死をかけた恵みの証人とされたのです。ここであの『バルメン宣

言第一項』をもう一度銘記いたしましょう。「聖書において証しされているイエス・キリストは、わたしたちが聞くべき、またわたしたちが生と死において信頼し服従すべき、神の唯一の御言葉である。」

- ◆パウロは「神の恵みによって、今日のわたしがあるのです」と言いました。  
「恵み」とは、絶対の赦し、赦罪のことです。自ら「赦し」「赦罪」を感謝しつつ、人を赦せないとすれば、それは本当に「赦し」を受けている事にはならないのではないのでしょうか。キリスト者は恵みの証人です。「赦罪」の生き証人です。いかにひどい仕打ちを受けたとしても、それさえも赦す時、わたしたちは真の意味で、恵みの証人、赦しの受領者なのです。
- ◆宗教改革の3大原理は、「聖書のみ・恵みのみ・万人祭司」です。わたしたち各自が、聖書のみ・恵みのみ生きて、信仰と希望と愛の鐘を鳴らす祭司として歩もうではありませんか。人々はそれを渴望しているのです。  
“あなたに逢えてよかった あなたには 希望の匂いがする  
つまずいて 傷ついて 泣き叫んでも さわやかな 希望の匂いがする”  
“あなたに逢えてよかった 愛しあう 心が戻って来る  
やさしさや いたわりや ふれあう事を 信じたい心が 戻って来る“

- ◆お祈りいたします。

主イエス・キリストの父なる神様。

あなたの限りない御恵み、御祝福を新たに覚え、感謝いたします。

わたしたちは、ただあなたの憐れみによって、御赦しによって、朽ちない、限りない、天の霊的な祝福の全てに満たされていることを覚え、心から感謝し、御名を讃美いたします。

あなたは闇を光に変えて下さいます。

あなたは死を命に変えて下さいます。

あなたは憎しみを赦しに変えて下さいます。

その奇跡を私たちに鮮やかに見させてくださいました。

そして、私達一人一人が、それぞれが頂いた賜物に応じ、

あなたの恵みと平和を証しする祭司・証人として、

これからの日々を歩ませてください。

これらの感謝と願い、主イエス・キリストの御名を通し御前にお捧げいたします。アーメン。